

サイトメトリー技術者認定試験 合格体験記

又吉 拓

I.はじめに

私はこれまで血液・遺伝子検査室に2年と輸血検査室に8年従事し、その間フローサイトメトリーはリンパ球サブセット検査・CD34定量検査・HLAクロスマッチを経験しました。造血器腫瘍検査の経験はありませんが、フローサイトメトリーに携わる期間も長いことや、フローサイトメトリーで新たな検査を院内導入したいという思いもあり、そのためには、知識の習得とスキルアップが必要だと考え、サイトメトリー技術者認定試験を受験しました。

II.認定試験に向けて

私が住んでいる県では、サイトメトリー技術者認定試験を受験した技師がいないため、独自で試験の情報を集めることから始めました。幸い、日本サイトメトリー学会のHPに【試験勉強の参考資料】が掲載されていたので、そちらを参考に試験の半年前から勉強を始めました。まずは、参考資料のスタンダードフローサイトメトリーを2周し、その後と同じく参考資料の過去問を解きました。そこで、造血器腫瘍検査の知識が定着できていなかったため、血液技術教本や血液スタンダードから造血器腫瘍検査を勉強することにしました。これだけでは、知識の定着に不安があったため、各メーカー(日本BD/ベックマンコールター)HPからフローサイトメトリーに関する情報および配信動画も参考にしました。普段、検査をしていない分野のため、時間を要し、最後は暗記することだけに専念しました。

III.認定試験当日

試験当日は、9時頃からサイトメトリー技術者講習会が行われ、その後に認定試験が行われました。私は、前年度にサイトメトリー技術者の講習会を受験していたため、試験当日は講習会に参加せず、認定試験のみ受験しました。試験は、表面抗原コースとDNAコースが選択でき、私は前者を選択しました。試験は、共通問題25問・表面マーカー25問の選択問題で、国家試験のようなマークシート形式ではなく、回答用紙に選択番号を記載する形式で、試験時間は90分でした。試験問題はスタンダードフローサイトメトリーや技術講習会の内容から出題されている印象でした。造血器腫瘍検査に関しては、血液検査学会誌からも出題されていたようにも思います。試験が終わった後は、コロナ禍での久々の遠出と90分間最大限集中したことにより、疲労感がありました。

IV.認定試験を終えて

今回、試験は無事合格できました。しかし、試験を振り返ると、フローサイトメトリーの勉強がまだまだ不足していたように思います。日頃から、サイトメトリー学会誌やサイトメトリーに関わる文献を読むことの大切さを改めて感じました。今後は、認定試験で学んだことや経験したことを活かして、臨床へ還元していきたいと思います。

この体験記がこれから試験を受けようと考えている方々に少しでも参考になれば幸いです。